



慶應義塾大学医学部 特任教授
国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 感染症部長

IWATA Satoshi 岩田 敏

専門医から 若手ドクターへ の提言

CAREER

小児科医であった 叔父の影響を受け医師の道へ

私は温泉町として知られる神奈川県湯河原町に生まれ、自然豊かな大磯で育ちました。自宅は常に犬や鶏がいる環境であったため、幼少時より生物に興味を抱き、小学生の頃にはシュバイツァーやガガーリン、野口英世といった自然科学の伝記をよく読んでいたと記憶しています。

小さい頃、商店を営み忙しい両親に代わって私の面倒をよくみてくれたのは、慶應義塾大学病院で副院長も務めた叔父(岩田 崇)でした。休日はよく映画館

に連れていってもらいましたが、そういう日は、必ずといってよいほど感染症とワクチンの研究をしていた叔父の研究室に立ち寄り、ウサギの注射と採血に付き合わされていたような気がします。

その後、将来について考えるとき、漠然と科学者に対する憧れを感じて、高校時代には自然と医師を目指すようになりました。

高校時代は、神奈川県小田原市から学校のある日吉まで、毎日1時間40分かけて通学し、放課後は体育会軟式野球部で汗を流す毎日でした。勉強に使える時間が少なかったこともあり、通学の電車の中で済ませたり、試験の直前になって集中的に勉強するという